

2023 年 7 月 4 日

バイオマス素材の使用量を増やし、さらに薄肉化したフィルムを採用 「手巻おにぎり」パッケージのプラスチック使用量を約 30%削減 全国のセブン-イレブン店舗において順次切り替えスタート

株式会社セブン-イレブン・ジャパン（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：永松 文彦）は、オリジナルフレッシュフードの主力商品である「手巻おにぎり」のパッケージについて、石油由来のプラスチック使用量の削減の取り組みとして、バイオマス素材の使用量を増やし、さらに薄肉化したフィルムに変更し、7月4日（火）より順次、全国のセブン-イレブンにて切り替えを始めます。

セブン&アイグループでは、グループの環境宣言『GREEN CHALLENGE 2050』におけるプラスチック対策として、オリジナル商品で使用する容器を 2030 年までに 50%、2050 年までに 100% 環境配慮型素材に切り替える目標を掲げております。セブン-イレブンの「手巻おにぎり」のパッケージにおいては従来も、バイオマス素材の配合や薄肉化を行ってまいりましたが、今回さらなる削減を目指し、パッケージの機能性は維持しながら、これまで難しいとされたポリプロピレン原料のバイオマス素材への置き換えとさらなる薄肉化を実現したことで、環境負荷をより低減したパッケージの導入が可能となりました。これにより、石油由来のプラスチックの使用量を 1 枚当たり約 30%削減※することにつながります。

セブン-イレブンは今後も、安全・安心で環境に配慮した商品の開発を進めてまいります。

※比較基準は 2013 年度の数値としております。

<概要>



<ご参考>

セブン - イレブンのオリジナル商品における環境負荷低減の取組み（一例）

チルド弁当の本体容器を紙化



弁当や惣菜等の容器の石油由来のインクや着色を削減



サンドイッチのパッケージの一部に紙素材を採用



サラダや惣菜のトップシール化や、容器へのリサイクルPET、バイオマス PET 素材の採用



以上